



	7 月				8 月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本年	30.5	25.9	28.0	130.0	32.0	26.8	29.0	112.5
平年	31.3	26.0	28.3	137.5	32.1	26.1	28.7	180.0
平年との差	-0.8	-0.1	-0.3	-7.5	-0.1	+0.7	+0.3	-67.5

(本年8月は20日までの計測値)

喜界町糖業振興会総会

去る7月26日(金)、令和元年度喜界町糖業振興会総会が休養村管理センターで関係機関を含めて、およそ200名を参集して開催されました。



本日、ここに令和元年度喜界町糖業振興会総会を迎えるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

平成30年度産は、相次ぐ台風被害により生産量は6万1千トンあまりと過去3番目に低い生産量となり、また品質面においても前期よりは高い13.33度でしたが平年並には届かず、生産農家の皆様にとりましては厳しい状況であったと思います。

さとうきびは本町にとって基幹作物として、農家の台所を支え、本町経済を支える重要な作物でもございます。スローガンにも掲げてある「さとうきび共済・収入保険に全戸加入しましょう。」「土作り・肥培管理で単収アップを図りましょう。」を掲げ、今後のさとうきび永続的に安心して栽培できるよう関係機関、団体、生産者が一致団結して取り組んでいく必要があります。

そのために、今後の土作りならびに適期管理作業の徹底を図り、単収向上を目指していただきたいと思います。

また、さとうきび共済や収入保険については加入促進をさらに推し進めていかなければなりません。本町においては2年連続で自然災害に見舞われています。今後、共済等へ未加入の生産者におかれましては、農業経営の安定を図り、農業生産力の発展に資することを目的とした保険制度への加入をぜひご検討いただきたいと思います。

最後に、来期のさとうきびが増産に上向くことと、さらには皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

喜界町糖業振興会会長 喜界町長 川島 健勇氏

生和糖業賞

おめでとうございます



予 約 達 成 賞	ト ラ ッ シ ュ 低 減 努 力 賞		
	手 刈 部 門	H V 委 託 部 門	H V 受 託 部 門
予約と実績の変動が10a以内 搬入量が100t以上で予約率 が100%に近かった生産者	手刈収穫(HV刈以外)で、50t 以上の出荷があり、トラッシュ率 の低かった生産者	HV収穫委託者でトラッシュ率・ 雑草(その他率)が低かった 生産者(生産量100t以上)	HV受託組合で60%以上を 受託し、トラッシュ率の低かつ た生産組合オペレーター
1位 (中里) 榎 清 志	1位 (志戸桶南) 松田 悦 和	1位 (荒木) 藤本 安 満	1位 (上嘉鉄中) 三浦功也HV 中山 元 義
2位 (志戸桶南) 浜川 寛 子	2位 (阿伝) 平田 久 成	2位 (手久津久) 岡本 宜 夫	2位 (川嶺) ファームKS 福島 克 幸
3位 (塩道) 浪島 昭 美	3位 (志戸桶南) 武 利 和	3位 (志戸桶南) 外内 みあき	3位 (志戸桶東) 梅林昭一HV 梅 林 昭 一

さとうきび共済

- 自然災害で収穫量が減少した場合に補償します。
- ※糖度の低下も減収量に換算して補償します。

さとうきび農家の皆様へ

近年、台風や豪雨などの自然災害が多発しています。今後も起こり得る災害等に備えて公的な保険制度である「**農業保険**」に加入しましょう！

収入保険

- 災害・価格低下を含め**販売**収入の減少を広く補償します。
- 病気やケガ**で収穫できない場合等も補償します。
- ※きびに加え**全ての農産物**が対象になります。

お知らせ

散水車について

散水作業の労力軽減対策として、4t車のタンク上部に放水銃を設置しました。

放水距離は 最大 約25m
放水時間は 最大 約10分

これまで、長くて重いホースを持ち畑に散水していましたが、散水車の上に散水銃を設置することで労力の軽減はもとより従来より手軽に散水することが出来るようになりました。

高所作業につき、安全には十分に留意して頂きますようお願いいたします。

散水車 貸出中！！

スプリンクラー未設置地域優先

(普通免許OK!)

受付順・日数制限あり



燃料：満タン貸出・満タン返し

喜界町さとうきび生産対策協議会

問合せ先：生和糖業(株)原料課

☎ (65-3133)

私のきび作り



2018/2019年度産において、作型別で単収が高く尚且つそれぞれの栽培面積が50a以上の生産者の方にさとうきびの栽培方法を聞き取りしましたので、今後のさとうきび栽培の参考にしてください。

夏植の部 藤本 安満氏

- ① 深耕、心土破碎――プラソイラー
- ③ 植付――8月頃から耕耘機による植付けで深植えをするように心がけている。
- ④ 基肥――BB464を3袋/10a
- ⑤ 土壌施薬剤――プリンスベイト剤を9kg/10a散布
- ⑥ 害虫防除――サムコルフロアブル10 植付から1か月後と培土から1か月後に散布
- ⑧ 除草――12月と4月頃 2.4.D、センコル、アーゼンを散布
- ⑨ 追肥・1回目――12月から1月 BB880を3袋/10a
2回目――5月 BBNK80を2袋/10a
- ⑩ 中耕――2～3回
- ⑪ 培土――12月～1月頃
- ⑫ 主な品種――農林23号
- ⑬ 気を付けている事――除草剤で枯れにくい草は手で抜き取る。



御三方のさとうきび栽培の共通点は、**雑草・害虫防除対策**をしっかり行っている事ではないでしょうか。
適期植付け、管理作業で茎数も確保出来ているように思われます。
さとうきび増産に向けて参考になさってみてはいかがでしょうか！

春植の部 南島 孝徳氏

- ③ 植付――2月下旬頃から耕耘機による植付け。
- ④ 基肥――ナシ 3月に芽出し用に硫安を2袋
- ⑤ 土壌施薬剤――プリンスベイト剤を6kg/10a散布
- ⑥ 害虫防除――4月下旬 スミチオン乳剤散布
- ⑧ 除草――草を見て 2.4.D、センコル、アーゼンを散布
- ⑨ 追肥・1回目――4月初旬 BBNK80を2.5袋/10a
2回目――6月頃 BBNK80を4袋/10a
- ⑩ 中耕――4月初旬、5月
- ⑪ 培土――6月頃
- ⑫ 主な品種――農林27号
- ⑬ 気を付けている事――害虫対策をして茎数を減らさないように気を付けている。

株出の部 米須 邦輝氏

- ③ 植付――2月中旬耕耘機による植付けの春株。
- ⑥ 害虫防除――畑を見回り、害虫が発生したらスミチオンを散布
- ⑦ 補植――春植時に補植用の苗を5～6袋分植え付けておく。
- ⑧ 除草――手で抜き取りしている。
- ⑨ 追肥・1回目――刈取り2週間後 オール14を5袋
2回目――5月頃 オール14を5袋
- ⑫ 主な品種――RK97-14
- ⑬ 気を付けている事――除草はなるべく除草剤を使わず手で抜き取るようにしている。

農林27号 (Ni27)

茎の揃いが良く、やや太茎で脱葉性が良い。側枝の発生もなく高糖多収の品種です。



図4 農林27号と農林8号の芽子

(1) 風折の発生しやすい圃場での栽培を避ける。

栽培上の注意点！

(2) 夏植を原則として、春植の場合は、低温期を避け3月頃植付で台風襲来時期までの生育量を確保する。



今年6月に南九州市の飼料用トウモロコシほ場で、ヨトウムシ類幼虫による食害が確認され調査の結果、国内未発生の「ツマジロクサヨトウ」と確認されました。

喜界町でも飼料用トウモロコシほ場で本虫を確認、被害が拡大されないように農家の皆様もほ場を見回り、幼虫の早期発見に努めてくださるようお願いいたします。

ツマジロクサヨトウに対しては以下の薬剤を使用して防除を行ってください。

薬剤名					
希釈倍数	1000倍	5000倍			
使用方法	散布	散布	植溝処理 土壌混和	植溝処理 土壌混和 株元処理	植溝処理 土壌混和
使用時期	収穫45日前まで	収穫30日前まで	植付時	植付時 培土時	植付時
散布量	100～300ℓ/10a	100～300ℓ/10a	6kg/10a	4～6kg/10a	4～6kg/10a
回数	4回以内	3回以内	1回	1回	1回

さとうきびへの被害については現状では報告はされていない。

※関係機関の話によると、さとうきび新植時は植溝処理土壌混和剤を使用、薬剤の残効性があり食害した害虫が死滅する。

また、残効性の切れた1m以上のキビは生長に伴い、茎が硬化することで食害されにくいとの事です。



国の農業構造改革路線は何処に向かっているのだろうか？中規模農家の経営縮小や離農によって流出する農地を担い手による規模拡大だけでは受け止められなくなっている状況で、家族農業を見直すことが持続可能な農業の実現のために最も効率的な対応だというべきだ。行き場のない荒廃農地を増やさないためにも家族農業経営が持続できるような政策を充実させて農地の流出をできるだけ食い止めることこそが大事である。

